

## 駿河ほねほね団報告

佐々木彰央



ミドルヤードでの骨格組み立ての様子

前回の会報でもお知らせした通り、本団体は笹川科学研究助成を受けて「頭骨以外の骨からでも同定できる骨格標本ライブラリの作製と新たな展示手法の開発ートガリネズミ目、ハリネズミ目」に取り組んでいます。6月からは新たに静岡大学の学生も加わり、精力的に活動を行っています。

6月12日、7月3日、8月14日にコウベモグラの骨格標本を本多、馬越、高山が、カワネズミの骨格標本を榊原が作製しました。佐々木は作製したコウベモグラの骨を前、後、背、腹、左側、右側の6方向から撮影し、1000枚以上に昇る骨の画像を整理しました。

標本の収集は、6月5日に朝霧高原でコウベモグラを、7月17日に南アルプス燕沢でカワネズミを、7月30日に伊東市でアムールハリネズミを、8月12日に南アルプス千枚岳でシントウトガリネズミとアズミトガリネズミ、ヒメヒミズを県の許可を得た上で捕獲しました。

新たな展示手法の開発は6月12日、7月3日、8月14日にミュージアム内のミドルヤード（来館者が見学できる作業部屋）にて、高田と静岡大学学生の鈴木、池谷、高橋がニホンジカの骨格標本組み立て作業を行いました。また、観山中学校から骨格標本を授業で使用したいとの要望があったため、シントウトガリネズミとアズマモグラなど計13点の全身骨格標本を貸出しました。さらに本団体が作製したモグラ類の骨格標本の展示を7月5日～26日まで「富士山こどもの国」と、8月1日～27日まで「焼津公民館」で行いました。8月8日には科学教育

研究協議会がミュージアム内を視察し、その際に本研究内容について説明すると共に、作製した骨格標本についても見て頂きました。

今後の予定としては9月10日に日本動物学会中部大会の公開シンポジウムで本研究の内容を含め、静岡県のトガリネズミ目の多様性についてお話しすると共に、9月24日には日本哺乳類学会でポスター発表を行います。

以下に参加者のコメントを記します。

本多佐あり：前回途中だったコウベモグラの頭蓋骨から下顎を外す作業とクリーニングを済ませてから、前脚と後脚を外して、頸椎、胸椎、肋骨の除肉を行いました。胸椎は肋骨と接しているの、それを目印に胸椎と腰椎を外します。これまで自分は椎骨の外し方を知らなくて椎骨と椎骨の隙間に闇雲にメスを入れていたので、一箇所外すのにも時間がかかってしまって小型の生き物の椎骨をどうやって外すのか、若干不安だったのですが、椎骨の間の白く出っ張った部分（椎間板）を、上からメスを押し付けるようにして外す方法を教えていただき、随分楽に外せたので驚きました。頸椎の周辺を除肉していた時に、見慣れない形の骨があって、なんだろうと思っていたら鎖骨でした。コウベモグラの鎖骨は円柱のような独特な形をしていました。

静岡大学2年 池谷拓真：私は幼いころから生き物が大好きで、動物の生態や行動、分類といった分野に興味がありました。現在はNPOの皆さんと一緒にニホンジカの骨格標本作製に取り組んでいます。骨を手にとってじっくり観察していると「どうしてこんな形をしているんだろう？」「この骨は何のためにあるんだろう？」と不思議に思うことがたくさんあります。生き物の形は、どれも長い時間をかけ自然界で生き残るための工夫を積み重ねて進化してきた歴史をよく表しています。そんな想像を膨らませながら、ひとつひとつの骨を少しずつ組み立てていくのはとても楽しいです！